

相談支援センターってどんなところ？

相談支援センターは、地域の乳幼児から成人の方や保護者の方々に対して、八戸盲学校の専門性（視覚障害教育）と、八戸聾学校の専門性（聴覚障害教育）を生かした相談支援を行っています。

これからも、地域のニーズに応え、特別支援教育のセンター的機能を発揮できるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センターの主な業務

①相談支援 ②三八地区特別支援連携協議会の運営 ③地域支援 です。

今回は、①相談支援 と ③地域支援で取り組んだ活動を紹介します。



この看板をご存じですか？

サテライト教室の活動について

相談支援事業の1つに「サテライト教室」があります。両校の教員が三沢市、十和田市、南部町の保健センター等の一室をお借りして、相談支援を行っています。いわゆる「出張相談」です。今年度は新たに三戸町にも開設し、現在まで5回実施しましたが、毎回たくさんの方が来談されます。八戸だと遠いけれど、近くだったら行ってみようかなという気軽な気持ちで来られる方も多いです。

相談内容は様々ですが、お子さんの発達が気になる、今の状況をもう少し改善したい等、感じていることがありましたら、八戸盲学校・聾学校のホームページで相談支援センターのサイトを見ていただき、お電話をいただけたらと思います。添付されているFaxの様式を使用していただけるとも可能です。今年度、予定されている教室は、あと3回となりますが、できるだけ多くの方々とお話ができればと思っています。

ゲストティーチャー事業について

地域支援事業の1つに、「ゲストティーチャー事業」があります。この事業は、希望のあった学校に両校の教員による「ゲストティーチャー」が出向きます。ほとんどの学校が、総合的な学習の時間の一環として実施しています。内容は、両校の紹介や講話や体験等を行います。盲学校であれば、弱視体験や点字学習、聾学校であれば難聴体験や手話学習等を行い、見えにくい人や聞こえにくい人に対し、自分たちがどんなことに配慮したらよいか考えていただく機会となるよう取り組んでいます。

聾学校が実際に行っている内容の一部を紹介します。



難聴体験ではイヤーマフを使います。



補聴器を装着し、音の聞こえ方を体験します。

難聴者への配慮について示したパワーポイント



口の うごきを
みているから
まえから はなして
ください



たいせつな
れんらくは
かいてくれると
いいな

愛・Eyeライブラリーについて

例年9月上旬に開催されている「愛・Eyeライブラリー in はちのへ」も地域支援事業の1つです。「愛・Eyeライブラリー in はちのへ」は、目の見え方で困っている人のための展示・体験会です。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催時期を検討していましたが、先日1ヶ月遅れの10月3日（土）、ラピア1階のフェスタプラザにて無事開催されました。

当日は、八戸東ライオンズクラブの後援、県立盲学校理療科、青森県視覚障害者情報センター、視覚障害生活・情報器機取扱店などの協力を受け、盛況のうちに終わることができました。

「愛・Eyeライブラリー in はちのへ」では、盲学校での学習や視覚障害についての理解を深めてもらうため、点字や障害者スポーツ、歩行体験、弱視体験、教材の展示などを行いました。また、日本盲導犬協会「スマイルワン仙台」盲導犬ルビーも訓練士と一緒に参加してくれました。

当日は、延べ100人近くの方が展示会に参加。体験活動では、パーキンスプレーヤーや点字盤による点字の名刺作り、視野のせまい眼鏡を装着しての色絵塗り、暗いゴーグルを着用してのキャッチボールやサッカー体験、白杖使用による足場の悪い場所の歩行、アイマスクを着用しての盲導犬との歩行等を行いました。また、最新の視覚障害生活機器では、わずかな時間で新聞の記事をカメラで読み込み、音声にして読み上げるものが紹介されていました。

マッサージ体験の様子



点字絵本コーナー



八戸盲学校OG天摩由貴選手の展示

白杖体験コーナー



音声図書



盲導犬



学習教材

